

都市政策研究センター公開講座

川崎中小企業の地域戦略など探る

「イノベーション・クラスター形成に向けた川崎都市政策への提言」プロジェクト(04年度選定文部科学省オープン・リサーチ・センター整備事業)の第3回公開講座「川崎市の都市再生と川崎市中企業の役割」が6月22日、行われた。メイン会場の川崎市産業振興会館に174人が来場したほか、オンデマンド中継が行われた生田・神田両キャンパスには合わせて90人が詰めかけ、盛況だった(社会知性開発研究センター／都市政策研究センター主催)。

宮本光晴経済学部教授が市内2800の中小企業へのアンケートの集計結果から、企業発展のための課題を報告。松田順・綜研テクノックス(株)企画／調査室室長が川崎市の地域的な特徴や選ぶべき戦略などを述べ、産学連携や行政の活用によるクラスター形成の可能性を示唆した。

講演後には3会場から多くの質疑が寄せられ、予定時間を超えて活発な意見交換が行われた(今秋には国際シンポジウムを開催予定)。



▲多くの聴講者が訪れた川崎市産業振興会館での講座

「Anglo-Saxon語の継承と変容」講演会

グレゴリオ聖歌「合唱」と共に解説 皆川達夫さん

「Anglo-Saxon語の継承と変容」プロジェクト(05年度選定文部科学省オープン・リサーチ・センター整備事業、社会知性開発研究センター／言語・文化研究センター主催)の公開講座が2件、神田キャンパスで開講された。

7月2日の「ヨーロッパ芸術の源泉—ルネッサンス美術とグレゴリオ聖歌—」は池上公平・共立女子大教授の講演のあとバロック、中世・ルネッサンス音楽の専門家として名高い皆川達夫・立教大名誉教授が講演した。欧州音楽の原点でキリスト教礼拝に歌われているグレゴリオ聖歌について分かりやすく解説。最近、本学図書館に収納(所蔵)された手稿写本のグレゴリオ聖歌集2冊の一部を示しながら参加者に音楽指導も行った。最後に同教授が主宰する中世音楽合唱団が、グレゴリオ聖歌を中心に12曲を披露。心和む歌声が会場を包み込み、130人の聴衆から盛んな拍手が寄せられた。また6月17、18の両日には「ヨーロッパ文学の源泉と発展」をテーマに国際公開講座が開講された。



▲参加者に歌唱指導をする皆川達夫さん(中央)

同プロジェクトは、7月23日(日)にも言語学コロキウム(討論会)を神田キャンパスで開催する。

自然科学研究所・公開講演会

森正夫助教授「楕円銀河の進化」解明の成果を披露

原始天体の謎を解明し、英国誌『ネイチャー』の表紙を飾った(本紙第428号で紹介)森正夫法学部助教授が、自然科学研究所主催の第7回公開講演会で、その研究成果を披露した。

講演会は7月1日、生田キャンパスで「深宇宙の謎に迫る—原始の宇宙から現在の宇宙へ—」と題して開催された。内藤豊昭研究所長が挨拶をし、岡村定矩東京大学副学長の「深宇宙探査の最前線」、梅村雅之筑波大学教授の「宇宙の歴史を紐解く」の両講演のあと登壇した森助教授は「原始天体の謎に迫る」と題して講演。

スーパーコンピュータでの世界最大規模のシミュレーションにより、楕円銀河の進化過程を再現、解明した研究成果を解説した。楕円銀河については、衝突合体仮説と単純収縮仮説が、歴史的な論争を繰り広げているが、その論争に決着をつける大きな布石を打つことになるという。

会場は、一般の聴講者、学生ら約300人が訪れ満席の大盛況。質問も活発に飛び出し、今後のさらなる活躍を期待する声が寄せられた。



▲立ち見も出た会場で講演する森助教授

文学部・野口講師が「学校図書館賞」受賞

本年4月に着任した野口武悟文学部講師(担当は図書館資料論ほか)が第36回「学校図書館賞」を受賞し、6月7日、東京都千代田区の学士会館で表彰された。同賞は、日本学校図書館振興会・(社)全国学校図書館協議会主催で、学校図書館の振興に著しい業績を示した個人及び団体を顕彰するもの。

受賞の対象となった論文は、野口講師が筑波大学大学院図書館情報メディア研究科博士課程で執筆した「わが国特殊教育における学校図書館の導入と展開に関する研究—障害児・者の教育と図書館の歴史」。



野口武悟講師

≪専修人の新しい本≫

インド民主主義の変容
広瀬 崇子他編著

人口11億人を抱えるインドは、1947年の独立以来、ほぼ一貫して議会制民主主義を維持してきた。定期的に行われる総選挙は、国家にとって一大行事であるが、研究者にとっても大変な研究課題である。28州、7連邦直轄地からなるこの国では、言語やカースト構成などが州によって全く異なり、当然政党の活動や派閥構成も州独特の特徴を抱えているからである。



本書は、2004年に行われたインド連邦の下院選挙結果を、28人の研究者によって州単位で分析したものである。全州そして全政党を網羅、世界でも誰も行っていない詳細な分析である。(明石書店・本体5000円＋税)

編者(ひろせ・たかこ)＝法学部教授。担当は国際政治学ほか。

日本古代王権の研究
荒木 敏夫著

本書は6～7世紀を中心として、古代日本の王(天皇)の権力構造の特質とそれを支えた制度、王(皇)位継承の問題、女帝即位の意味、大后(皇后)、太子・皇子の役割、王族の婚姻規定、諸豪族との権力関係などを詳述したものだ。



著者はすでに『日本古代の皇太子』『可能性としての女帝』『日本の女性天皇』を上梓しているが、本書で改めて、王位の危機を救った女帝・皇太子の存在意義をクローズアップしている。

古代史のなかでも最もドラマティックな世紀で「壬申の乱」を頂点として、大伴、物部、蘇我などの豪族を巻き込み、露骨な王権篡奪(さんだつ)戦争を繰り広げた時代背景、人間群像が行間から浮かびあがり、興味深い。(吉川弘文館・8500円＋税)

著者(あらき・としお)＝文学部教授。担当は歴史学入門ゼミナールほか。

法と権力 1970年～2005年
小田中 聡樹著

刑事訴訟法、裁判法を専門に、「横浜事件」などの弾圧や誤判についても積極的に発言してきた著者が、1970年から現在まで、その時々著した88編の時評と随想2編を发表順に編んだもの。「法と権力」と民衆との矛盾、対立、葛藤の、その時代のありようが映し出されている。



戦争、人権侵害、強権、弱肉強食への構造改革によって進む今日の人間崩壊、社会解体の深刻さ。その現実を直視し、いかに打開するか真摯に問いかける。全編に貫かれるのは、反骨の精神と、普遍的価値としての人権、自由の追求。絶望的現実とは異なる「もう一つの現実」の存在に希望を託す著者の力強いメッセージが聞こえてくる。(現代人文社・本体2200円＋税)

著者(おだなか・としき)＝元法学部教授。